



## 『 脂肪肝について 』

---

脂肪肝は、アルコール多飲によっておこる「アルコール性脂肪肝」と、アルコール摂取なしか又はわずかな飲酒なのに肝臓に脂肪が沈着する「非アルコール性脂肪肝」に大きく分けられます。

非アルコール性脂肪肝は、最も高頻度にみられる肝臓疾患でありその頻度は一般人の約10～25%にまでおよぶとされています。

近年、食生活の欧米化により、日本でも肥満、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は増加していますが、このような肥満や糖尿病とともに脂肪肝の大部分は、肝炎、肝硬変にはならないと信じられていました。

しかし飲酒歴がほとんどないにもかかわらず、肝硬変にまで進行したり、肝臓癌を合併する脂肪肝があることがわかってきました。

B型・C型のウィルス性肝炎・肝硬変は、通常より肝臓癌の合併率が高いので定期的な超音波検査によって早期発見治療が可能です。非アルコール性脂肪肝炎・肝硬変は、ウィルス性肝疾患に比べて定期超音波検査がなされない場合もあり肝臓癌の早期発見が困難です。

予防としては、肥満による脂肪肝はまず食生活を改善し、カロリー摂取を減らし、徐々に体重減量すること。糖尿病を合併している場合は、糖尿病自体が血管合併症や眼、神経の合併症をひきおこす全身性の疾患ですので、専門医でしっかり通院治療することが重要です。



鹿児島厚生連病院  
内科部長 樋脇 卓也